

教育概論Ⅱ(中高)－2

担当：鵜殿篤



<http://meganeCulture.boo.jp/2019/09/19/gairon2/>

▼語学・心カ・教福・服美・表現 9/28 / 栄養・環教 10/1

■今回の見通し

・『学習指導要領』が言う「育成を目指す資質・能力」を設定しよう！

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して**育成を目指す資質・能力**を踏まえつつ、**各学校の教育目標を明確にする**とともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。
(『学習指導要領』20-21頁)

・中学校3年間でどのような「力」を身につけさせるべきか、考えよう。

←そのためには、「力」の概念の基本的な知識に加え、そう言われるようになった背景の理解が必要になります。

■前回のおさらい

・「学力」とは何か？

(1)基礎的基本的な知識・技能

(2)身につけた知識を活用する力 思考力・判断力・表現力等

(3)自主的に学ぶ意欲・態度

■今回身につける基本的知識

・21世紀の教育は、コンテンツからコンピテンシーへ転換しなければなりません。

・コンテンツとは、「内容」のことです。教科書に載っている知識です。

・コンピテンシーとは、具体的な文脈で知識を活用することができる「力」のことです。

・学習指導要領が言っている「資質・能力」とは、コンピテンシーのことです。

■「知識より能力」の考え方

思考力・判断力・表現力

・数学は役に立たないのでしょうか？ ←時代遅れのコンテンツ型教育をイメージする人と、21世紀型のコンピテンシー型教育をイメージする人で、回答は変わってきます。

・思考力＝ものごとを論理的に考える力。①規則、定義、条件等を理解し適用する ②必要な情報を抽出し、分析する ③趣旨や主張を把握し、評価する ④事象の関係性について洞察する ⑤仮説を立て、検証する ⑥議論や論証の構造を判断する

・判断力＝情報の選択、問題の明確化、計画を評価選択する力、意思決定の力

・表現力＝コミュニケーション能力

▼いろいろな「○○力」を考えてみよう！

ex.助詞力：てにをはを適切に使える能力



■背景

(1)PISAショック

※ PISA 調査：学習到達度調査 (Programme for International Student Assessment)

※ OECD：経済協力開発機構 (Organisation for Economic Co-operation and Development)

・2003年と2006年の調査で日本の国際的順位が大幅に低下しました。特に知識を活用する問題に課題があることが分かりました。

※全国学力・学習状況調査：2007年より実施。小6と中3を対象。基礎基本を聞くA問題と、活用力を問うB問題に分かれているのが特徴です。

※DeSeCo：人生の成功と正常に機能する社会(持続可能な発展)のためにどのような能力が必要かという課題に対して、人がもつべき知識や技能を超える能力群

(1)社会及び個人にとって、価値のある結果をもたらすこと。経済的、社会的な有益性。

(2)多様な状況の重要な課題に直面した時、適応を助けること。人生の多様な領域に渡る判断能力。

(3)特定の専門家(産業や職業、社会階層など)のみではなく、すべての人にとって重要であること。

→『学習指導要領』の「生きる力」の再検討に影響を与えます。

(2) 知識基盤社会

※知識基盤社会(knowledge-based societ)：新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増すような世の中

・新しい知識を実際の経済活動に活用できるかどうか勝負の決め手になります。

・産業構造の転換：製造業から情報産業へ。モノからコトへ。

(3) 第四次産業革命、Society5.0

※第四次産業革命：18世紀末以降の水力や蒸気機関による工場の機械化である第1次産業革命、20世紀初頭の分業に基づく電力を用いた大量生産である第2次産業革命、1970年代初頭からの電子工学や情報技術を用いた一層のオートメーション化である第3次産業革命に続く、IoTとビッグデータ及びAI等をコアとした技術革新を指します。



※Society5.0：狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会。IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出します。また、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革(イノベーション)を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。



■今回の「週刊教育課程」

(1)みなさんの中学校に入ってきた子どもたちが大人になる頃(西暦2050年)、どのような能力をもってると幸せに暮らすことができるでしょうか？

偏差値が高いだけで大丈夫でしょうか？

(2)大人になったときに持つべき能力が明確になったら、「中学生のうちに身につけたい資質・能力」とは何かを考えてみましょう。



■復習と予習

・「育成を目指す資質・能力とは一知識から21世紀型能力へ」を読んでおこう。

・自分が所属していた中学校の「学校目標」を調べておこう。

